

# 目の難病原因 遺伝子を特定

など大医 浜

視野や視力が悪化し、などを、国立成育医療  
ていく難病「網膜色素 研究センター（東京  
変性症」の日本の患者と浜松医科大学の研  
者では、七人に一人に 究チームが発見し、二  
の遺伝子に異常がある ワン電子版に発表し

た。  
歌米人の患者ではほ  
んど異常がないこと  
が分かっており、チー  
ム（東総行・同研究セ  
ンター細胞治療研究  
長（眼科学）は「早期  
発見のための検査や新  
しい治療法につな  
がると話している。  
チームによると、網

膜色素変性症は早けれ  
ば幼児期に発症。通常  
はゆくりと症状が進  
行し、数十年で失明に  
至る。国内では四千  
八千人に一人が発症す  
るとされているが、根  
本的な治療法は見つ  
かていない。

患者と健康な人の計数  
百人からDNAの提供  
を受け、視覚に関係す  
るさまざまな遺伝子の  
配列を比較。患者の約  
15%で、視細胞をつく  
る働きのある「EY  
S」という遺伝子が変  
異していることが判明  
し、主要な原因遺伝子  
とみられるという。

2012年2月2日 中日新聞：夕刊 10面掲載  
許諾番号：20120827-11573